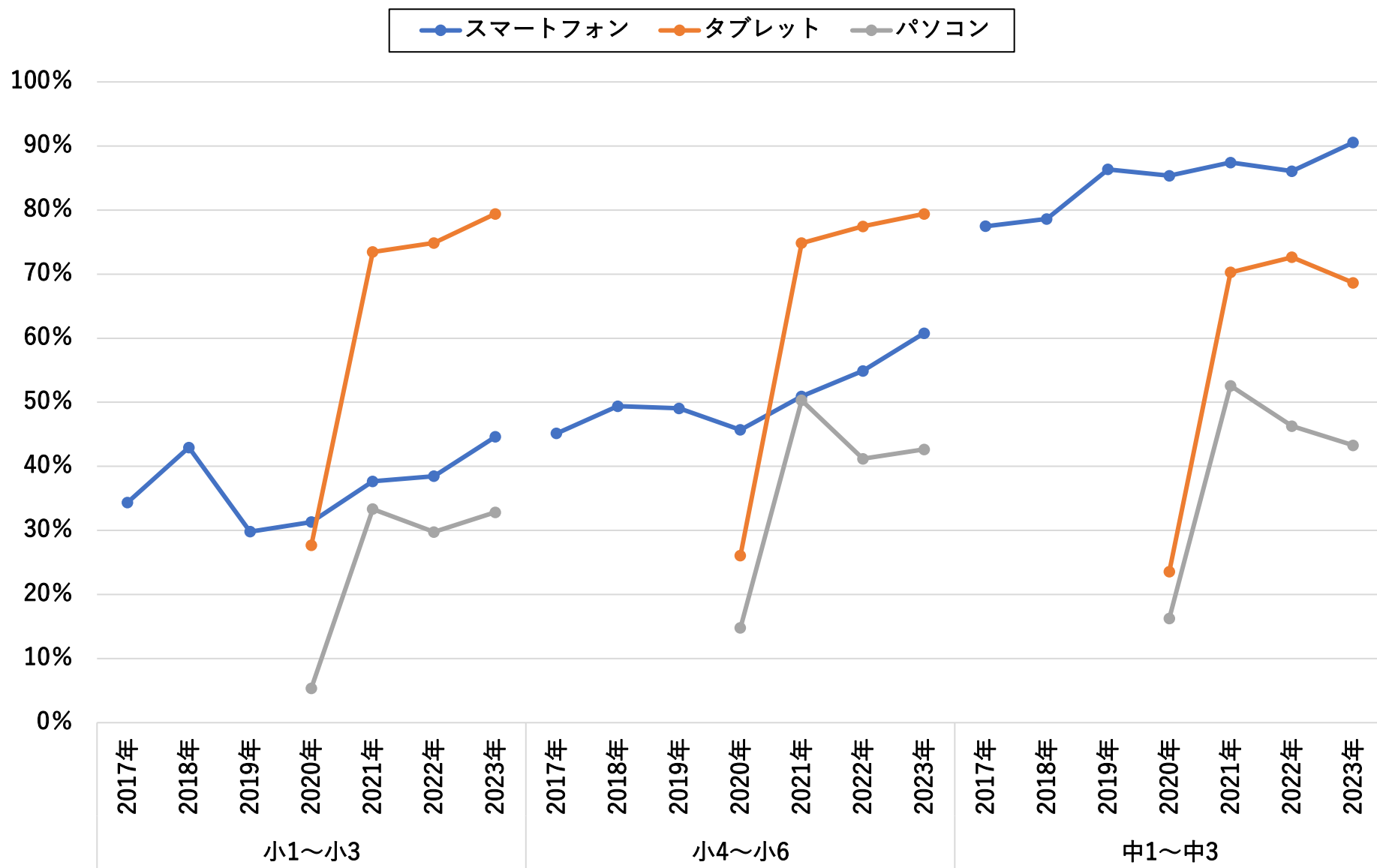




小中学生のICTスキルの類型化

- 水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 吉良 文夫 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

スマホの利用率は上昇傾向が続く、タブレット及びパソコンは2021年に大きく伸びる



目的

ICTスキルの類型化

調査概要

調査時期	2023.10
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県 小中学生の親子
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・都市規模で割付
サンプル数	600

分析方法
数量化理論第Ⅲ類

■ 全体 ■ 小1～小3 ■ 小4～小6 ■ 中1～中3

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

写真や動画を撮影することができる

スマホで文字入力ができる

インターネットを使って情報を検索できる

パソコンのキーボードで文字入力ができる

SNSで、見せたい人にだけに情報をおくることができる

指定されたフォルダへファイルに名前を付けて保存できる

スマホやタブレットを、ほかのひとがつかえないように設定できる

スマホやタブレットを最新のOSにアップデートする

ブログや動画などをインターネットで共有する

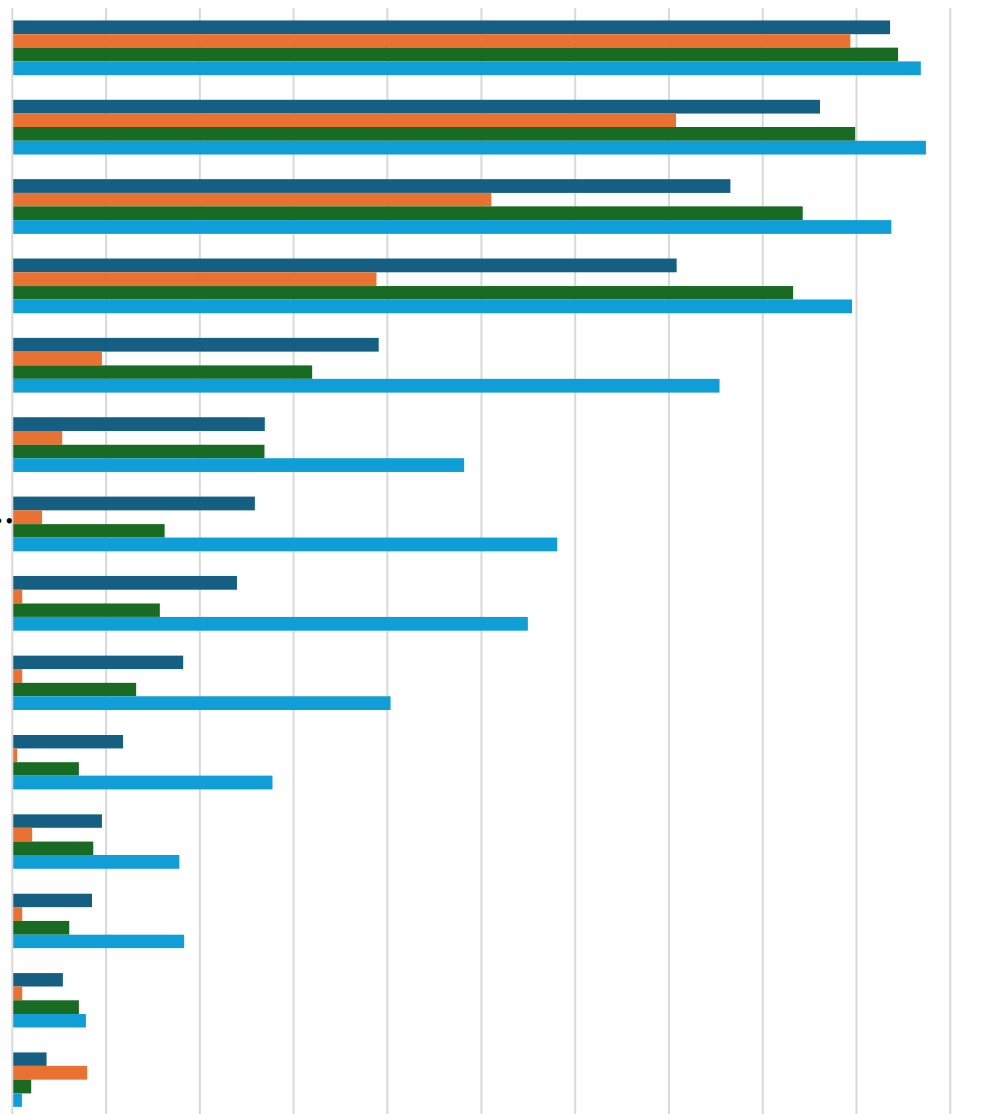
自分のスマホでQRコード決済をおこなう

画像のファイルサイズ（容量）の変更ができる

エクセルなどの表計算ソフトでグラフを作成できる

プログラミングをしてアプリやシステムをつくれる

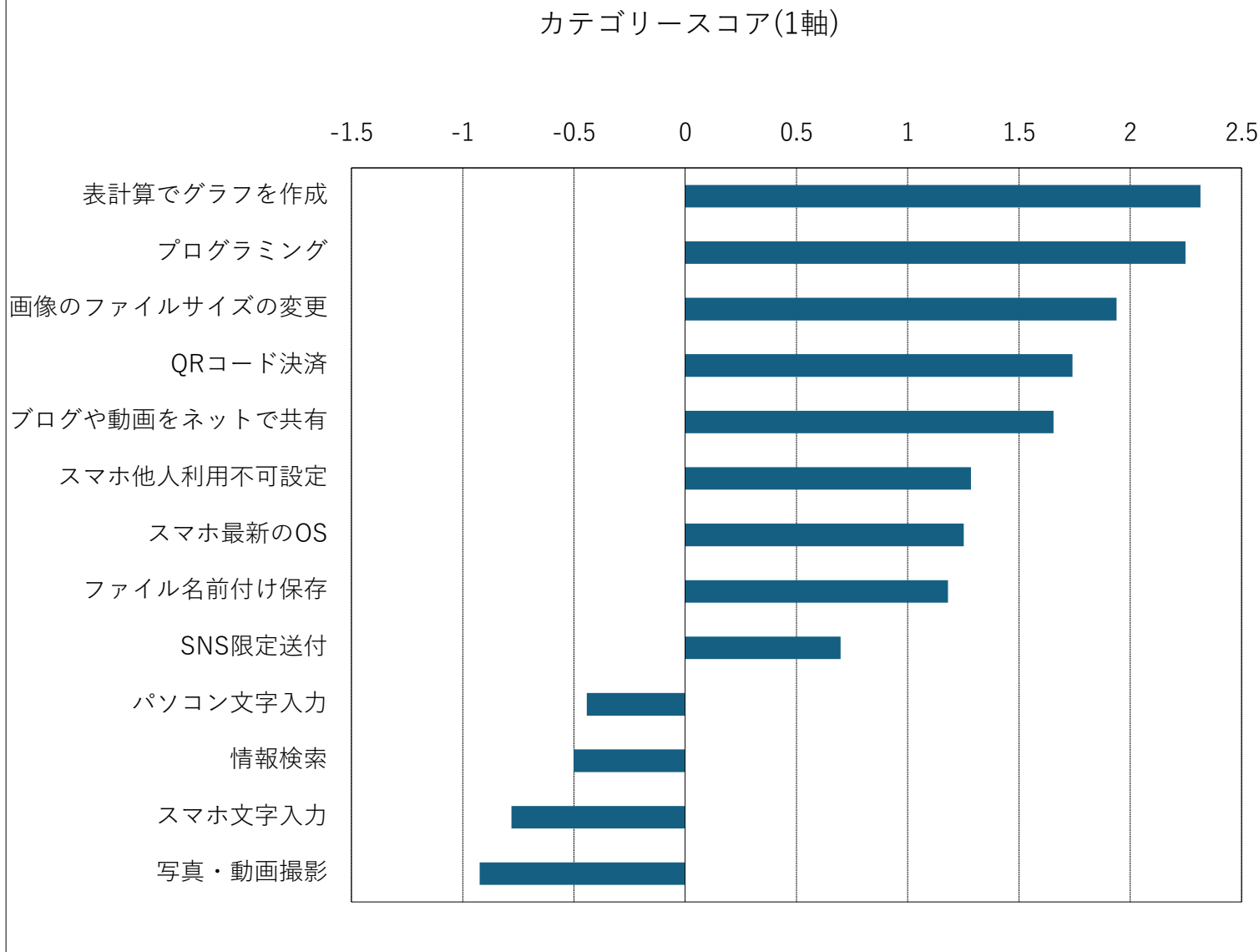
この中にあてはまるものはない



1 軸は実施できる割合の多寡で分かれる

少ない（応用）

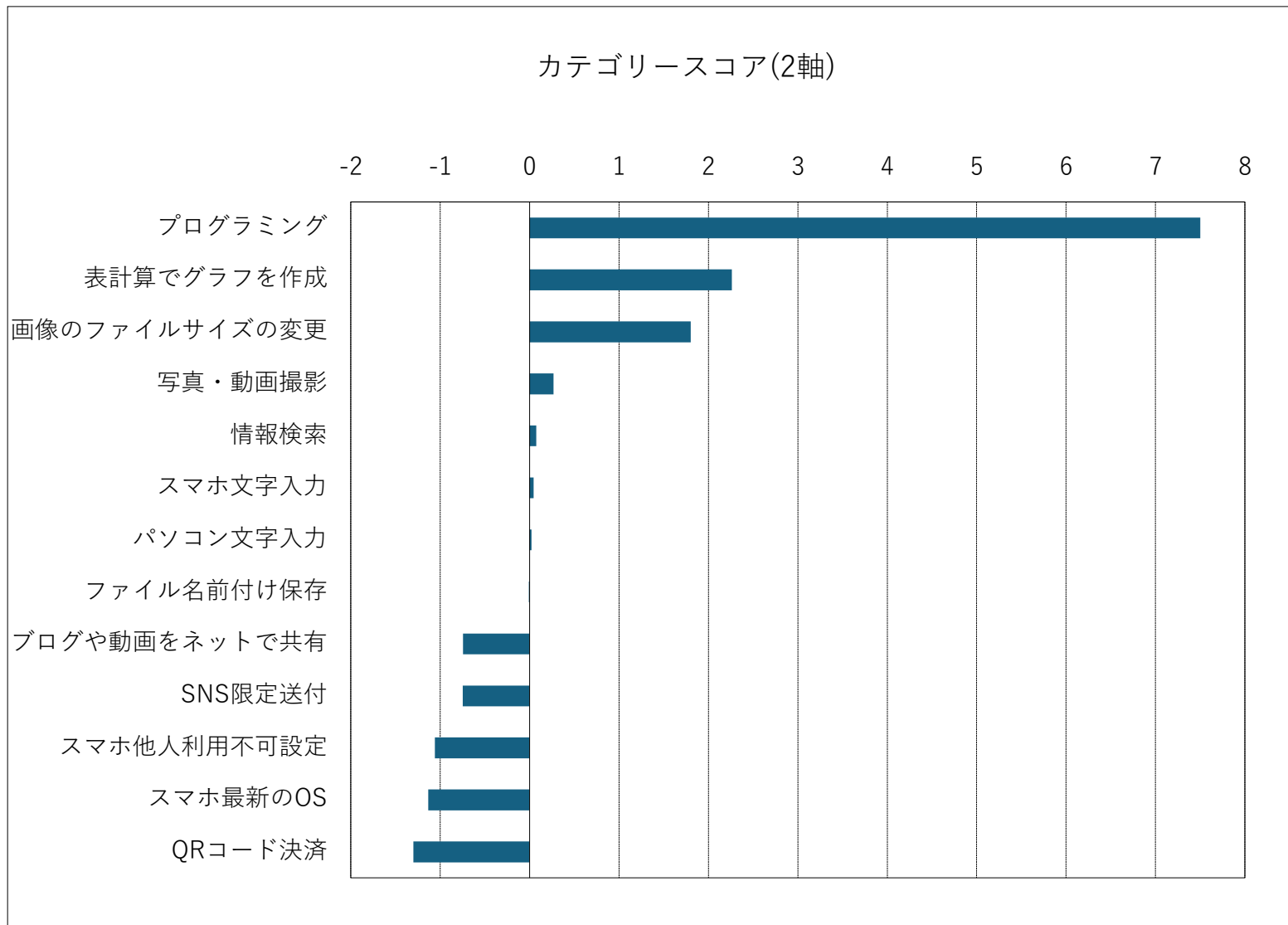
多い（基礎）



2軸は主にパソコンに関連するスキルか、スマホに関連するスキルかで分かれる

パソコンスキル

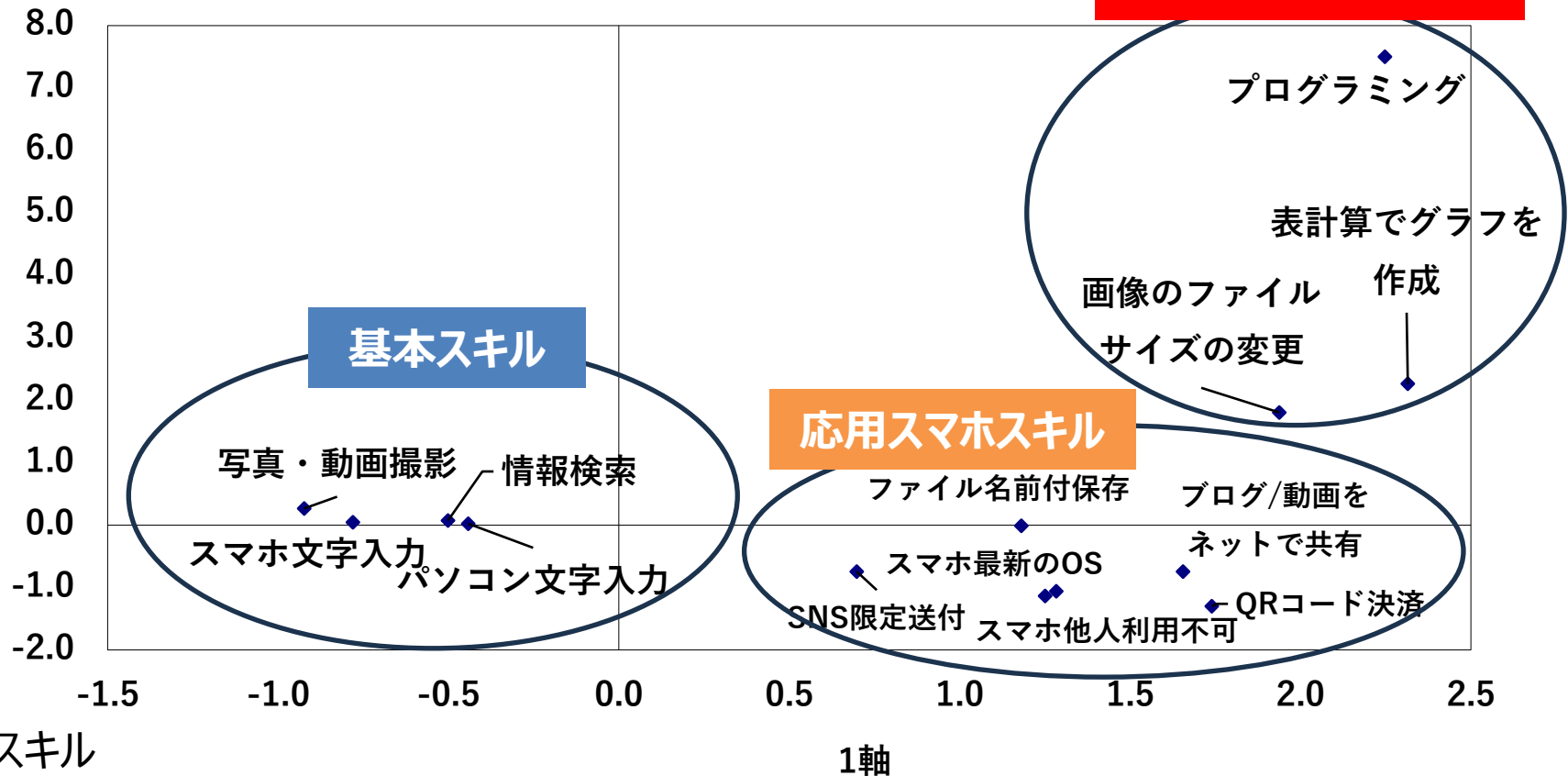
スマホスキル



「基礎スキル」「応用パソコンスキル」「発展スマホスキル」に分かれる

2軸

パソコンスキル



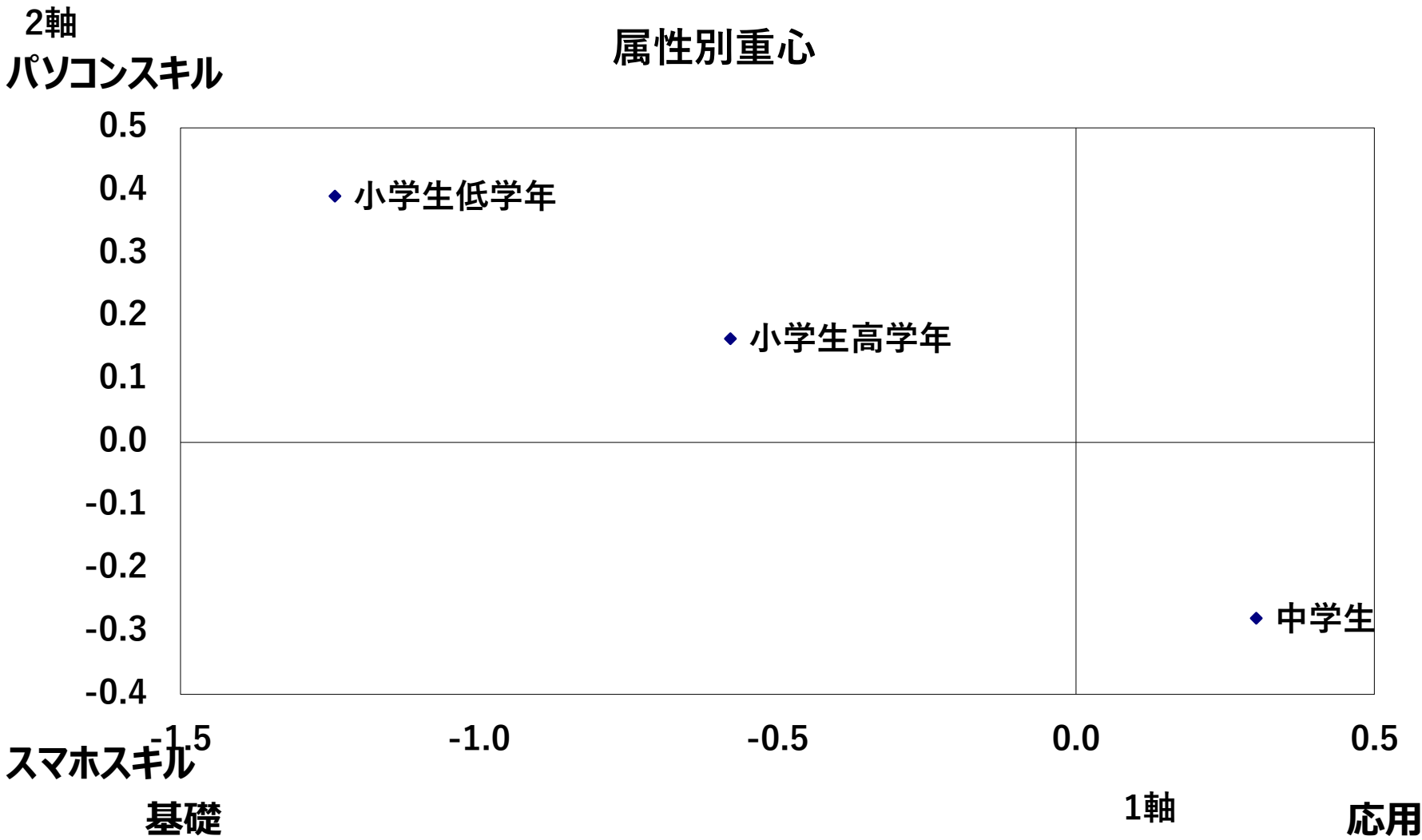
スマホスキル

基礎

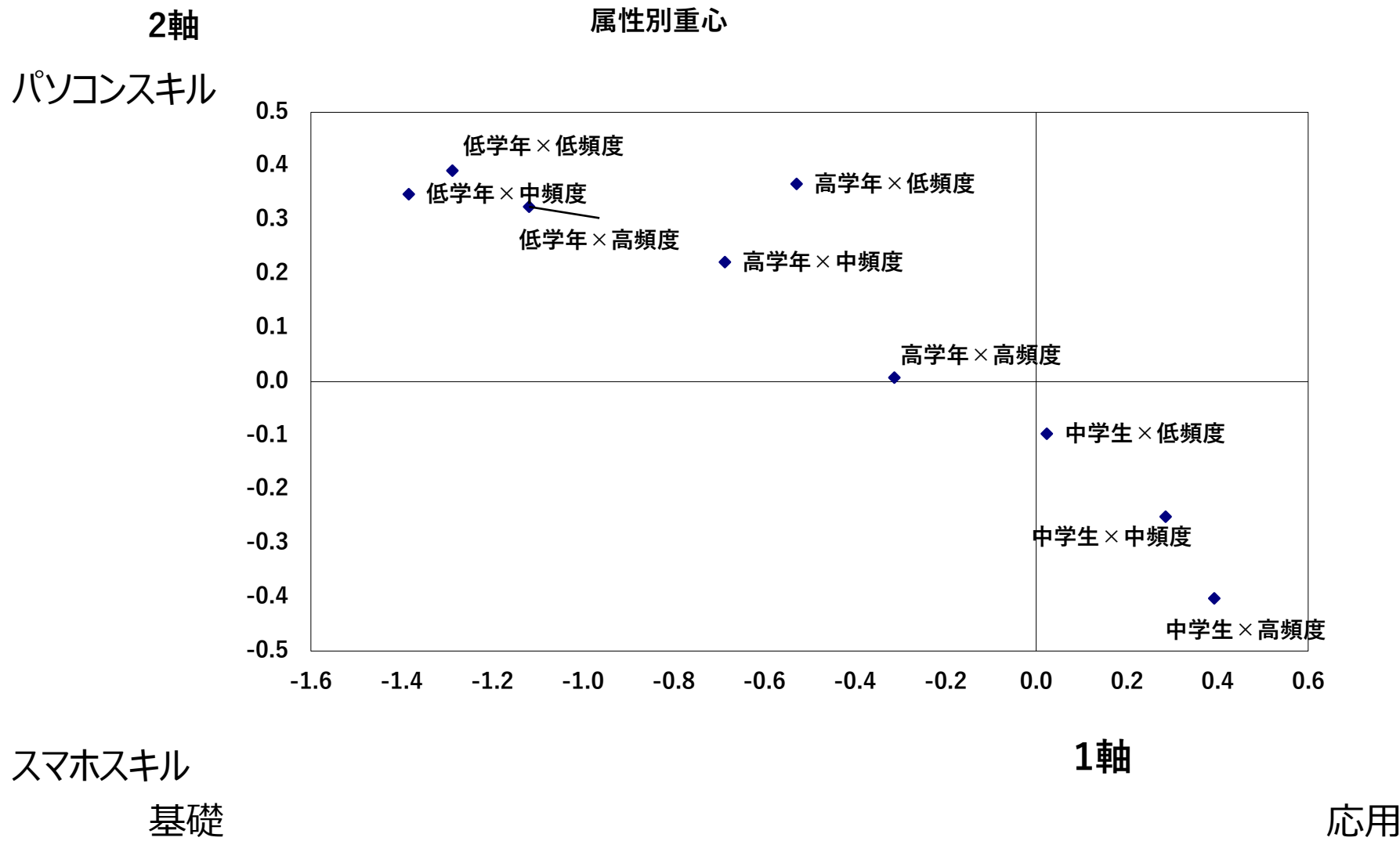
1軸

応用

「基礎スキル」「応用パソコンスキル」「発展スマホスキル」に分かれる



小学校低学年はインターネット利用時間多寡によるスキル差は少ない。
 小学校高学年及び中学生になるとインターネット利用頻度が多くなるとスマホスキル・応用傾向になる。



- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

<経年変化:2010年~>

子どものICT

シニアのICT

ニューノーマル

健康

防災・減災のICT

スマホ利用者意識調査

情報発信

影の縮小

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2022>



(書籍・電子書籍)

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

連携

連携

メディア掲載・データ引用・意見交換会等